

## ◆特集 コロナ感染がもたらした教訓とは

# 最悪を想定していない

『週間金曜日』2021年9月24

日発刊から転載(筆者及び週刊金曜日編集部承認)

## 雨宮処凛の乱気流79から

『週刊金曜日』編集委員 雨宮 処凛

8月、変死遺体として警察が扱ったうちの、実に250人がコロナ陽性だったことが判明した。過去最多で昨年3月からの合計は817人になるという(2021年9月13日付『共同通信』)。

コロナ禍が始まって1年半。この夏、10万人以上が自宅療養という名の「自宅放置」をされていた。あらゆる対応が場当たり的で、根拠のない楽観論に基づく中、予想通り医療崩壊が起き、多くの命が失われてきた1年半。なぜ、ここまで機能不全が起きているのか。もはや

手のつけようがないのではないかと思うと空恐ろしくなってくる。

そんなこの夏、困窮支援の現場でも恐れれたことが起きていた。支援団体に、発熱した人や体調が悪い、味覚がないという人から相談が入るようになったのだ。

コロナ陽性が疑われるわけだが、このような相談によって気付かされたのは、現在、住まいがなく保険証も所持金もない人の感染が疑われた場合、当人がすみやかに検査を受けてホテルに隔離され、食事やお金の心配をせずに療養できる仕組みは何ひとつないということだ。

都内では自宅療養が原則とされているが、その「自宅」がない場合の想定がまったくなされていないというお粗末さ。支援者たちは、発熱している人をそのまま路上に戻すわけにはいかないので、なんとかシェルターを確保したりと奮闘している。が、民間団体がボランティアでできることには限界がある。そうしてこのような現実を通して予想されるのは、今もネットカフェなどで人知れず発熱に苦しむ人がいるということだ。

支援団体からは、東京都に要請をする予定だ。まず、保険証や所持金がない場合でも、すみやかに検査を受け



民間団体のシェルターで治療を行う医療スタッフ。しかし、民間のボランティア活動には限界がある。

られることは必須だろう。住まいがない場合、検査結果を待つ間の滞在場所も必要だ。また、現在、住まいがない人が生活保護を申請した場合、1カ月ほどホテルに滞在できることになっているが、陽性であれば難しいと思われる。そのような場合、どこに滞在するのかなどもはっきりさせておく必要がある。一方、検査結果が陰性でも発熱がある場合、宿泊施設も必要だ。それにしても、住まいがない人がコロナ陽性になる可能性について、この1年半、まったく準備されていなかったことが恐ろしい。国のコロナ対策はあらゆることが後手後手であることはわかっていたつもりだが、この件を通して本当に「最悪を想定していない」のだと痛感した。

今のところ、今月中には要請できそうである。都への要請によって、少しでもマシな対応に変わることを祈っている。  
(あまみや かりん)

この記事は、昨年の8月頃のコロナ感染の状況を把握した中身であり、その後、どうなったのかを総括するのに役立つので転載させて頂いたことをご了承ください。